日本産業衛生学会
近畿地方会ニュース

発行所　日本産業衛生学会近畿地方会
（事務局　圓藤吟史）
〒545-8585　大阪市阿倍野区旭町1-4-3
大阪市立大学医学部環境衛生学教室内
ＦＡＸ　06-6646-3160
発行責任者（地方会長）　堀　口　俊　一

第50回近畿地方会総会を迎えて

（平成14年度総会会長挨拶より）

地方会長　堀　口　俊　一

本日は近畿地方会の第50回総会という記念すべき日を迎えました。まず、第50回の謂れと申しますか、その起源に遡ってみたいと思います。昭和28年（1953）に、それまで3年ばかり続きました「近畿労働衛生研究会」が発展的に解散して、「日本産業衛生協会近畿地方会」として発足した時点が起点となります。私事にわたりますが、この年はインターンを終えて、大学の衛生学教室に入った年でもあります。

今回の50回総会に記念事業を行うことにつきましては、平成5年度より、予算に別途積み立てを計上してまいりました。平成11年度の臨時幹事会において、50周年事業の所管担当理事の任を私が務めることになり、理事補佐として平田衛幹事、この事業に関わる幹事として小泉直子、宮下和久、河野公一、田中健一、車谷典男、平田衛の各氏が決まり、事業の推進が始まりました。なお、途中で平田幹事が転勤されて、関東地方会へ転出されましたので、事業全体の事務局を平田幹事から河野幹事へ移し、記念誌編集委員会の事務局を大阪医大の渡辺丈真助教授にお願いすることになりました。記念誌編集は引き続き平田幹事が主となって担当していただくことになり、編集委員に平田、堀口の他に、渡辺丈真、阪上皖庸、佐野敦、植本寿満枝、岡田治子、渋谷保之の各氏に加わっていただきました。これまでに4回の編集委員会が開かれ、あと6月の編集委員会においてほぼ最終稿をチエックし、8月頃の発行を目指しています。

また、本日の50回記念総会における基調講演、シンポジウムの企画は当初、田中健一幹事にお願いしましたが、体調不良の由にて辞退され、結局、学術担当の徳永力雄理事にお願いすることになりました。徳永理事の案を幹事会に諮り、本日のような内容となりました。

50年前のことは現在はっきりと残されていません。しかし、今回のことは50年後まで、総会の模様も伝えられ、また記念誌としても残されることになるであろうと思います。これから50年後の第100回記念総会に思いを馳せますと、現在20歳代の若い会員の方々が私どもの年齢に達していることでしょう。本日の第50回記念総会はまことに意義ある日であります。今後、これらの若い人たちの力によって、近畿地方会が更なる発展を遂げますことを期待して、私の挨拶といたします。

>>>>>>>>>　第50回近畿地方会総会　<<<<<<<<

日本産業衛生学会近畿地方会50年をふりかえって

基調講演演者　近畿地方会長　堀口俊一

第二次大戦勃発以前、昭和11年1月に日本産業衛生協会の「京阪地方会」が発足し（翌年「京阪神地方会」と改称）、これが現在の日本産業衛生学会近畿地方会の前身に当たる。大戦終結後、昭和24年6月に「近畿労働衛生研究会」が発足し、昭和28年まで、日本産業衛生協会とは独自の組織として活動が続けられた。この研究会の発足した年の8月、阪大医学部、大阪市立医大、大阪市立生研、大阪府立労研を中心として、学生を動員した環境調査班が組織され、鉛をはじめ種々の事業場での調査が行われた。当時、大阪市立医大の学生であった私も参加したが、参加予定の級友の一人が亡くなったことは忘れ難い。ところで、近畿労働衛生研究会が中央とは独自の活動をしていた経緯について、第二次大戦中における日本産業衛生協会の戦争協力に対する批判の意味が籠められていたようであるとされる。この点に関して解明すべきとの幹事会への西山勝夫教授の提案があり、調査を依頼した。その詳細は、50周年記念誌に掲載されることになっている。ともかく、昭和28年に近畿労働衛生研究会は日本産業衛生協会近畿地方会へと発展的に解散した。この時をもって今回の50周年の起点としている。

昭和33年頃、大阪でビニールサンダル製造女子作業者にベンゼン中毒が多発した。この事件に対して、大阪における行政、大学、研究所、地元病院が協力して調査、研究、事後措置に当たった。この結果は「労働科学季報」に特集され、梶原三郎教授の洞察に富んだ序文が見られる。この例をはじめ、その他の産業保健に関する事項について、協力して対処する関西の伝統的気風が現在に続いている。

平成8年、近畿地方会に産業医部会と産業看護部会とが発足した。地方会におけるこれらの部会の発足は全国に先駆けるものである。これも、近畿地方会のまとまりの良さと、積極性を示すものとして自負し得る。今回産業衛生技術部会が発足することになり、三部会が協力して、産業保健を推進する体制が出来上がった。

近畿地方会は戦後の復興期を経て、経済発展期に入る時期に発足し、現在、平成の不況期の最中にあるが、この間、良き先輩、指導者に恵まれて、六府県会員が協力して運営に努めて来た。産業保健の未来については、現在における各事象の問題点を的確に捉え、予測される事象に対して積極的に対応してゆくべきであり、若い方々の力に期待するところが大きい。最後に近畿地方会の発展に貢献されて物故された方々のご冥福をお祈りする。

シンポジウムのまとめ

司会　兵庫医科大学公衆衛生　小泉直子
大阪市大大学院産業医学　圓藤吟史

第50回近畿地方会総会シンポジウムは、『これからの産業保健―私の提案―』という標題で行われた。演者はそれぞれの専門の分野で指導的役割りを果たしている、しかも出来るだけ若い方々に新しい考え方を主張して頂くということで企画された。午後2時30分から7名の演者にわずか10分間ずつの講演であったが、現在の産業保健の矛盾点や今後の方向性について、熱を込めた講演が行われた。

最初の山田誠二氏（松下産業衛生科学センター所長）は、産業医は嘱託産業医への依存が増す中で、今までの単に健康管理を主としていた時代から、今後は専門家のネットワークづくりによる総合的な産業保健対策が求められることを強調し、自立した産業医が求められ、教育、訓練の充実に向けて指導的役割りを担うべきであると主張した。

2番目の海道昌宣氏（P＆G北東アジア統括産業医）はこれからの包括的産業保健への取組みには明確なVisionとConceptが必要であり、目標の到達点とその合意プロセスにおいて、効果的、効率的システムを追及すべきであるとのことであった。産業医は今までの単なる行政上のリスク管理から、社会的、道義的責任の拡大が起こり、アカンタビリティ（説明責任）を求められるであろう、さらに労働の多様性、多様な個を尊重し、多数の利害関係者の中での問題解決手法が必要となることを主張した。最後に産業保健は「失敗に学ぶ」から「成功に学ぶ」べきであるとの発想は興味深かった。

3番目の河合俊夫氏（中央労働災害防止協会大阪労働衛生総合センター）は10年後の生物学的モニタリング研究と題して、膨大な数の化学物質の外部用量、内部用量による生体影響を探るためには、化学物質の分子化学構造、分子的な化学性質、生体との反応性などを用いてシュミレーションモデルを作り、数学的解析により法則性を見出すことが行われるであろうと予測した。さらに、近年の分析技術の発達により、測定は感度、精度、再現性ともに格段の進歩を遂げていることから、今後は超低濃度（ppb）の化学物質曝露の健康影響を探ることや、従来から有害性が明らかな物質でモニタリングが行われていない物質についても今後注目していくべきであると述べた。

4番目の植本寿満枝氏（北大阪地域産業保健センター相談員）は看護師の立場から、労働安全衛生法の改正経過の中で、次第に産業看護師の心理相談および産業保健指導の責任が重くなってきていることを述べた。しかし、看護系大学の基礎教育においてすら、産業看護に関する知識を必須のものとして位置付けているところは少ないことから、日本産業衛生学会産業看護部会では、「産業看護職継続教育システム」を立ち上げ、基礎コース、実力アップコース、向上教育コース（再教育）で産業看護の専門性を高めるよう努めているとのことであった。

>>>>>>>>>　第50回近畿地方会総会　<<<<<<<<

総会に参加して

大阪労働衛生総合センター　太田　裕一

5番目の熊谷信二氏（大阪府立公衆衛生研究所労働衛生部主任研究員）は衛生工学の立場から、特に有害物の測定の将来について講演した。有機溶剤等のリアルタイム測定器を開発し労働衛生管理へと活用すること、有害物測定は職場環境を評価するツールとしてとらえ、単に曝露環境指標としてのみとらえず、測定場所、測定時間等を柔軟に行い、その結果を総合的な管理体制の形成に役立てるべきであると述べた。さらに現状に応じて「作業環境測定」、「個人曝露測定」、「改善のための測定」を選択して測定できる法制度の改正が必要ではないかと提言した。

6番目の小泉昭夫氏（京都大学大学院健康要因学教授）は、産業保健分野の専門家のパラダイムをシフトする必要がある。早期発見・早期予防、職場不適応の解決、生物学的モニタリング、健康診断後の事後措置といった現行の産業保健パラダイムから、貧困、環境保全、公平・平等・均等、人権等といったキーワードに立脚したテーマの選択とそれを達成するための人間開発支援の方法の構築という、新しいパラダイムを創造する必要があると主張した。

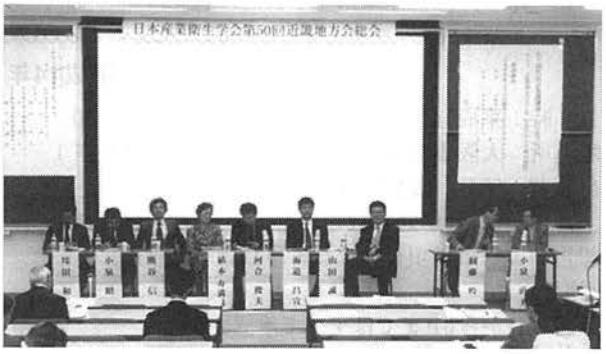
7番目の坪田和史氏（滋賀医科大学予防医学助教授）は産業保健の現在の重要な課題は「少子高齢化社会における産業医学・保健の役割」と「情報化社会における産業医学・保健の役割」に集約できる。前者については青壮年期の男性をモデルにした産業保健から女性、高齢者、障害者が能力を発揮して働き続けることができる産業保健対策が求められている。後者については情報産業における新たな健康問題の発生が職場だけでなく、地域社会、家庭、学校での健康問題へと拡大し始めているが、これらの情報機器の開発は女性、高齢者、障害者が安全で快適に使用できる方向へと発展して行くべきであるとの考えを示した。

以上7名の講演の後質疑に移り、会場の学会員から産業保健の将来に対する提言がなされた。現在の産業保健分野は価値観も多様であり、複数のパラダイムが混在している状況にある。産業保健対策も今までの法律による規制をクリアしていればよかった時代から、産業保健担当者が互いの専門性を活かしたネットワークをつくり、規制の領域を越えて為すべき部分は何か、何が求められているかを十分に考察し、それを如何に達成していくかが要求されるであろう。その際、産業保健対策を展開する上での重要な課題はプライバシィの確保であり、産業保健対策とプライバシィとは同調するところもあれば、相反する状況に立たされることもある。これからの産業保健専門家はチームワークを維持しつつ、個々には自立して、規制以外の領域にも踏み込んで諸問題を解決していく判断力と行動力が要求されるであろう、ということを司会者のまとめの報告としたい。

総会にあたって、堀口地方会長から50周年記念誌が8月に出版され、これに戦前戦後の歴史が記されているとの紹介があった。議事の一つとして、「近畿地方会産業衛生技術部会の立ち上げについて」が取り上げられ、承認された。総会終了後、堀口会長から「日本産業衛生学会近畿地方会50年をふりかえって」と題して、基調講演が行われた。その中で、近畿地方会設立当時のこと、ベンゼン中毒が多発した当時のこと、労働衛生を推進していく上で、行政・大学などの研究機関・民間病院の協力体制が必要であることなどについて話され、大変興味深く傾聴した。また堀口会長は、長年労働衛生は医師主導型であったが、今後は産業医部会・産業看護部会・産業衛生技術部会の3部会が協力して産業保健活動を推進され、本会の発展に期待したいと結ばれた。シンポジウムは「これからの産業保健―私の提案―」のテーマのもと、7名のシンポジストから報告があった。医師として、産業衛生技術者として、産業看護職として、大学研究員としての立場から、これからの産業保健について私見を述べられた。これまでの労働衛生管理は、疾病管理・労働安全衛生法の遵守中心であったが、労働安全衛生マネジメントシステムやリスクアセスメントが求められる昨今では、各労働衛生専門スタッフが協力して推進していくことが必要である。

作業者の有害物質ばく露状況や健康状態を的確に把握し、作業環境測定・健康診断の事後措置を推進するためには、解決しなければならない研究課題は多い。また中小企業の労働衛生問題、非定常作業時の労働災害を解決するためには、新たな戦略が必要であると思われる。

フロアーとの総合討論の中で、「社会に役に立つもののみ生き残れる」観点から、我々に何を求められているのか、我々は産業保健の中で何ができるのか、もう一度原点に返って、歴史に学んで考えてみることも必要であるといったような産業衛生についての根源的な意見がいくつか出されたのが、印象的であった。



議　事　録

第50回近畿地方会総会

日　時：平成14年5月25日（土）13：00～13：50
場　所：大阪市立大学医学部学舎　4階中講義室
1．近畿地方会会長（堀口俊一）挨拶
2．日本産業衛生学会理事長（藤木幸雄）挨拶
3．物故会員の報告
　事務局への報告は13年度はなかった。
4．佐野敦先生（松下電子部品(株)本社）を議長に選出
5．総会の成立を確認
　出席者　368名（出席者64名、委任状304名）
　会員数1348名の内、出席者が会員の1/5以上となり本総会は成立した。
6．議事署名人の選出
　西尾久英先生　（神戸大学大学院医学系研究科）
　長井聡里先生　（松下電工(株)本社）
7．議題
　(1) 平成13年度事業報告
　　圓藤理事より説明があり、承認された。
　(2) 平成13年度決算報告（監査報告）
　　圓藤理事より説明後、原監事より会計監査を承認した旨の報告と、業務管理について留意点が述べられ、会場より承認された。
　(3) 平成14年度事業計画（案）
　　圓藤理事より5月1日号の地方会ニュース掲載記事にそって説明があり、各議案が承認された。
　(4) 平成14年度予算（案）
　　圓藤理事より説明があり、承認された。
　(5) 第75回日本産業衛生学会総会開催報告
　　住野公昭実行委員長より報告がされた。
　(6) 第42回近畿産業衛生学会進捗状況について
　　河野公一学会長より、地方会ニュース5月号掲載記事にそって説明がされた。
　(7) 第43回近畿産業衛生学会開催について
　　本日の幹事会および評議員会で兵庫医科大学の井口弘教授が学会長に推薦され、総会で承認された。
　(8) 近畿地方会産業衛生技術部会立ち上げについて
　　幹事会・評議員会で満場一致で近畿産業衛生技術部会設立が承認され、総会でも満場一致で承認され、正式に近畿産業衛生技術部会が本日発足した。
　(9) 近畿地方会50周年記念事業について
　　堀口50周年記念事業担当責任者から報告がされた。
　(10) 産業衛生講座実行委員会報告
　　徳永力雄実行委員長（旧年度に引き続き就任）から開催報告と今後の活動方針が述べられた。
　(11) 近畿産業看護部会規程改正について
　　一部改正が、幹事会、評議員会で承認されたことが報告され、総会においても承認された。
　(12) その他
　　昨年行われた本部理事長選挙に関して、評議員の一人から4月17日付けで幹事会に提出されている意見書に対する回答を堀口地方会長がおこなった。幹事会としての方針を明確に示すには不十分であったが、議長より総会の時間内に処理するのは無理であるから、幹事会の調査および審議結果を別途近畿地方会員に報告してはいかがとの助言があり、会場からも異論がなかったので本件は保留事項となった。

平成14年度第1回幹事会

日　時：平成14年5月25日（土）11：10～12：10
場　所：大阪市立大学医学部学舎　12階セミナー室2
出席者：堀口　植本　藤木　圓藤　岡田　原　住野
　　河合　河野　小泉　宮下　上田進　車谷　山田
　　日高　大脇　長澤　杉本　清田　大東（敬称略順不同）
事務局　清田
1．物故会員の報告
　13年度事務局への報告はなかった。
2．議題
　(1) 平成13年度事業報告
　(2) 平成13年度決算報告（監査報告）
　(3) 平成14年度事業計画（案）
　(4) 平成14年度予算（案）
　(5) 第75回日本産業衛生学会総会開催報告
　(6) 第42回近畿産業衛生学会進捗状況について
　(7) 第43回近畿産業衛生学会開催について
　(8) 近畿地方会産業衛生技術部会立ち上げについて
　(9) 近畿地方会50周年記念事業について
　(10) 産業衛生講座実行委員会報告
　(11) 近畿産業看護部会規程改正について
　(12) その他
　　昨年の本部理事長選挙に関して、評議員の一人から幹事会宛に意見書が提出されている件に関して討論された（すべての資料は事前に幹事および監事に郵送済み）。幹事会としては、①広報から近畿地方会員に配信された第1報の葉書の一部に誤りがある、②配信費用は広報担当責任者が出しているが、地方会から支出すべきではないか、③再発防止のための対策をどうするか、を中心に討議された。

平成14年度第1回評議員会

日　時：平成14年5月25日（土）12：20～12：50
場　所：大阪市立大学医学部学舎　4階小講義室1
出席者：68名（委任状26名含む）
　　113名中過半数の出席により評議員会は成立。
報告および議事項目は上記幹事会議事録参照。
（結果）
議題（1)から(11)まではすべて承認された。
(12)で、昨年の本部理事長選挙に関して、評議員の一人から幹事会宛に意見書が提出されている件に関して事実説明が資料に基づき堀口会長からなされた。当該評議員から、総会で幹事会が保有する資料を会員に配布して幹事会の所信表明を希望する意見が出されたが、会長が口答で総会で幹事会の所信を述べることとなった。

第75回日本産業衛生学会で次の3名の近畿地方会々員の方が受賞されました。心よりお慶び申し上げます。
（功労賞：五十音順に掲載）

功労賞受賞

日本産業衛生学会功労賞を受けて

京都工場保健会　池田　正之

この春、神戸で開催された第75回日本産業衛生学会に際して学会から功労賞を頂戴し心より喜んでおります。この分野を志した最初から終始御指示を給わっている原一郎先生と御一緒に受賞させて頂いたことにとりわけ喜びを感じております。

京大の医学部を出、インターンを終えて公衆衛生の西尾雅七先生の許で、直接には村上宏先生の御指導を受けて研究を始めたのが1958年のことでした。その後1974年から1988年まで十数年間は東北地方会に移っていました。京都に戻って最初の近畿地方会の折、当時お元気でいらっしゃった三浦武夫先生をはじめ多くの会員の方々が穏やかな関西の言葉で暖かく迎えて下さったことを今尚鮮明に覚えています。半世紀近く変わらない御高誼を頂戴し続けている近畿地方会の方々に改めてお礼を申し上げる次第です。

京大を定年になって京都工場保健会に移ってから早や6年が経ちました。幸い健康に恵まれこの二、三年は産業衛生の分野から時々飛び出して仕事をすることも増えました。しかし出発点となった産業衛生への志を常に抱いての仕事を続けていきたいと考えております。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

功労賞受賞

日本産業衛生学会功労賞を頂いて

大阪産業保健推進センター　原　　一郎

第75回日本産業衛生学会総会（2002年4月；神戸）において、功労賞を頂く光栄に浴した。

私が本学会に初めて参加したのは、私のインターン時代、丸山　博先生のおすすめに従って、戦後初めての総会（1947年4月；京都）への出席であるから、55年にわたる会員ということになる。この長期の会員であることに加えて、近畿地方会の事務局の手伝い、いくつかの研究会・委員会の委員ならびに理事などを務めたことに対する受賞であろうが、近畿地方では、梶原、堀内、西尾、三浦、東田先生など、全国では久保田、坂部、井上先生など、多くの先生や、多数の会員に教えられたご恩の方が、はるかに大きい。

長さ、広さにおいては、いささかの貢献をなしえたとしても、その深さを考えると、不十分であったことばかりが思い出されて、受賞には申し訳ない思いがある。

これからは、せめて次のことに努めて、ささやかな恩返しをしたいものと考えている。

Science Based Occupational Health の確立

（臨床医学における EBM［Evidence Based Medicine］に倣っての表現である）

奨励賞受賞

日本産業衛生学会奨励賞を受けて

大阪府立公衆衛生研究所　労働衛生部　熊谷　信二

第75回日本産業衛生学会において奨励賞を頂きました。これも、共同研究者の皆様、そして現場の管理者や労働者の皆様のおかげと感謝いたしております。

私は大学卒業後、最初に作業環境測定機関に就職しました。そこでは、1ヵ月のうち10～15日間は現場に出かけてサンプリングを行い、残りの日に分析と報告書作成ということで、1年中、作業環境測定の仕事をしていました。この時に、様々な産業現場を見ることができたこと、そして多種類の有害物を測定できるようになったことは、その後の私にとって多いに役に立っています。また、職場環境の評価には作業環境測定だけではだめで、個人曝露測定が不可欠であるという思いを深めました。そのため、現在は、作業環境測定と同時に、個人曝露測定も実施するという方針で職場環境調査を行なっています。今後も、現場調査を中心に労働衛生の仕事を続けていくつもりですので、皆様方の御指導をよろしくお願いいたします。

近畿地方会役員担当一覧（平成14年～平成16年度）

地方会長：堀口　俊一（大阪産業保健推進センター）
副会長：植本寿満枝（北大阪地域産業保健センター）
総務：担当理事：　圓藤　吟史（大阪市立大学大学院医学研究科産業医学）
〔補佐：　清田　郁子（大阪市立大学大学院医学研究科産業医学）〕
担当幹事：○清田　郁子
財務：担当理事：　圓藤　吟史
〔補佐：　清田　郁子〕
担当幹事：○河合　俊夫（中災防大阪労働衛生総合センター）
学術：担当理事：　植本寿満枝
〔補佐：　河野　公一（大阪医科大学衛生学・公衆衛生学）〕
担当幹事：○河野　公一
上田　進子（NTT西日本関西健康管理センター）
小泉　直子（兵庫医科大学公衆衛生学）
長澤　孝子（積水化学工場(株)滋賀栗東工場）
西村俊一郎（至誠会西村医院）
宮下　和久（和歌山県立医科大学衛生学）
広報：担当理事：　岡田　　章（丸紅大阪健康開発センター）
〔補佐：　大東　正明（ダイハツ工業(株)保健センター）〕
担当幹事：○杉本　寛治（滋賀産業保健推進センター）
大脇多美代（みずほフィナンシャルグループ大阪健康開発センター）
車谷　典男（奈良県立医科大学衛生学）
日高　秀樹（三洋電機連合健康保険組合）
道辻　広美（松下産業衛生科学センター）
山田　誠二（松下産業衛生科学センター）
（○印代表）
産業医部会：担当理事：岡田　　章
〔補佐：大東　正明〕
産業看護部会：担当理事：植本寿満枝
〔補佐：石山　珠江（キヤノン販売株)大阪健康管理室）〕
産業衛生講座実行委員会兼改訂編集委員会：
委員長：徳永　力雄（関西医科大学衛生学）
委　員：圓藤　吟史、岡田　　章、
車谷　典男、小泉　直子、
山田　誠二
日本産業衛生学会理事長：
地方会理事：藤木　幸雄（松下産業衛生科学センター）
地方会監事：原　　一郎（大阪産業保健推進センター）
住野　公昭（甲南女子大学）

近畿地方会副会長を拝命して

植本　寿満枝

近畿地方会にとって、今年は50周年という記念すべき年に当たり、記念事業が進められている所ですが、このような年に副会長を任命され、その責任の重大さを痛感しております。産業保健活動の向上と発展に寄与出来る地方会活動を目指し、会員の皆様の意見を吸収・反映し、開かれた地方会になるよう願って止みません。そのためには、産業保健に携わる種々な専門職が専門性を高めつつ、連携を深める事が不可欠な要因と思われます。会員の皆様方のご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願い致します。

近畿地方会産業医部会役員

事務局：丸紅大阪健康開発センター
〒541-8588　大阪市中央区本町2-5-7
FAX：06-6266-2181
部会長：岡田　　章（丸紅大阪健康開発センター）
副部会長：桝屋　義雄（(医)成義会　桝屋医院）
幹　事：朝枝　哲也（(財)京都工場保健会）
伊藤　正人（松下電器産業(株)高槻健康管理室）
鍵谷　俊文（全日空(株)大阪空港支店総務部健康管理センター）
郷司　純子（兵庫医科大学公衆衛生学）
酒井　英雄（星田医院）
佐野　　敦（松下電子部品(株)本社健康管理室）
杉本　寛治（滋賀産業保健推進センター）
瀧本　忠司（ダイハツ工業(株)京都工場診療所）
中西　一郎（東レ(株)滋賀事業場健康管理センター）
長井　聡里（松下電工(株)本社健康管理室）
引石　文夫（大阪市交通局　健康管理室）
日高　秀樹（三洋電機連合健康保険組合保健医療センター）
藤本　直樹（川崎重工業(株)兵庫工場　保健診療所）
増田　安民（松下電器産業(株)健康管理室）
宮上　浩史（松下産業衛生科学センター）
本岡　　康（新日本製鐵(株)広畑製鐵所　総務部）
茂原　　治（(財)和歌山健康センター）
山田　誠二（松下産業衛生科学センター）
監　事：土生　久作（大淀町保健センター）
広田　昌利（三洋電機連合健康保険組合産業保健センター）
顧　問：圓藤　吟史（大阪市立大学大学院医学研究科産業医学）
河野　公一（大阪医科大学衛生学・公衆衛生学）
徳永　力雄（関西医科大学衛生学）
藤木　幸雄（松下産業衛生科学センター）
堀口　俊一（大阪産業保健推進センター）
理事補佐：大東　正明（ダイハツ工業(株)保健センター）
清田　郁子（大阪市立大学大学院医学研究科産業医学）
（五十音順）

本部産業医部会

日本産業衛生学会産業医部会幹事会は学術集会の開催に先立つ、4月9日神戸国際会議場で開かれ、高田和美部会長の後任として、近畿地方会選出の岡田章幹事が就任した。認定産業医数が延べ5万人を超えたと言われる一方、産業医を取り巻く環境は殊に厳しさを増しているのが実状である。このようななかで、あらゆる局面に的確に即応してゆけるよう、各地方会並びに理事会推薦の19名の全幹事の努力が望まれるところであり、特に今期は役割分担を下記の如く明確化して対応する事とした。忌憚のない御意見と共に全会員の御支援、御助力をお願いするところです。

副部会長：広瀬俊雄（東北）、広報：山田誠二（近畿）、埋忠洋一（関東）、学術：浜口伝博（理事）、総務・会計：藤代一也（九州）、監事：高木勝（九州）

（文責：岡田）

近畿地方会産業看護部会役員

事務局：植本ヘルスサポートセンター
〒573-0023　枚方市釈尊寺町25-43-301
FAX：072-854-5853
代　表：植本寿満枝（北大阪地域産業保健センター）
幹　事：石山　珠江（キヤノン販売(株)大阪健康管理室）
上田美代子（大阪産業保健推進センター）
上田　進子（NTT西日本関西健康管理センター）
大脇多美代（みずほフィナンシャルグループ大阪健康開発センター）
岡田　治子（大阪産業保健推進センター）
沖中奈美子（松下電器マルチメディア開発担当室）
鮫島真理子（松下健康管理センター）
佐々木博子（JR西日本福知山鉄道健診センター）
鈴木　純子（日本アイ・ビー・エム(株)）
中島美繪子（神戸市看護大学看護部保健看護学講座）
中村　俊子（松下産業衛生科学センター）
長澤　孝子（積水化学工場(株)滋賀栗東工場）
西内　恭子（大阪ガス健保組合）
吉田　広子（JR西日本大阪保健管理部）
監　事：栗岡　住子（住友金属工業(株)大阪本社人事部大阪人事室）
山口　智子（三井住友銀行大阪中央健康開発センター）
（五十音順）

本部産業看護部会

部会長：河野　啓子（関東）
教　育：中島美繪子（近畿）、会　計：上田　進子（近畿）
研　究：西内　恭子（近畿）
（他　幹事25名）

近畿地方会産業衛生技術部会役員

事務局：中災防大阪労働衛生総合センター（河合）
〒550-0001　大阪市西区土佐堀2-3-8
FAX：06-6448-2263
会　長：河合　俊夫（中災防大阪労働衛生総合センター）
副会長：熊谷　信二（大阪府立公衆衛生研究所労働衛生部）
道辻　広美（松下産業衛生科学センター）
幹　事：綾木　　仁（神戸大学大学院医学系研究科環境医学・公衆衛生学）
生田善太郎（(財)和歌山健康センター）
圓藤　陽子（関西医科大学公衆衛生）
清田　郁子（大阪市立大学大学院医学研究科産業医学）
近藤　雄二（天理大学体育学部健康管理）
田淵　武夫（大阪府立公衆衛生研究所）
中迫　　勝（大阪教育大学）
藤原　　治（三洋電機(株)事業開発本部・環境リサーチセンター）
古澤　禎司（(財)京都工場保健会）
（五十音順）

本部産業衛生技術部会

産業衛生技術部会が発足して2年になり、色々な企画がなされています。各地区には担当幹事が置かれ、地区の部会の活性と会員の広報活動、及び部会事業等を行っています。近畿地区では平成14年5月に部会が設立されました。この地区部会は本部部会に属し、これから地区における産業衛生技術の向上と発展を図ることになります。近畿地区の本部技術部会の担当幹事は河合俊夫が担当しており、また地区技術部会の世話を行っています。また、産業衛生学会誌イエローページの連載講座「産業衛生技術」の編集委員を兼ねています。これは技術部会が主になり、最近の産業衛生技術を紹介する試みです。是非読んで意見をお寄せ下さい。

（文責：河合）

近畿地方会研究会一覧

職業性筋骨格系障害研究会
代表者：車谷典男
事務局：奈良県立医科大学衛生学
〒634-0813　橿原市四条町840
TEL0744-29-8841　FAX0744-29-0673
E-mail　knorio@naramed-u.ac.jp

じん肺研究会
代表者：森永謙二
事務局：大阪府立成人病センター
〒537-8511　大阪市東成区中道1-3-3
TEL06-6972-1181　FAX06-6978-3046
E-mail　morinaga-ke@mc.pref.osaka.jp

職業性腫瘍研究会
代表者：森永謙二
事務局：大阪府立成人病センター
〒537-8511　大阪市東成区中道1-3-3
TEL06-6972-1181　FAX06-6978-3046
E-mail　morinaga-ke@mc.pref.osaka.jp

産業精神衛生研究会
代表者：夏目　誠
事務局：あけぼの会メンタルヘルスセンター
〒533-0031　大阪市東淀川区西淡路2-15-5
TEL06-6322-0030　FAX06-6321-4107
E-mail　mental@akebonokai.or.jp

労働衛生法制度研究会
代表者：西山勝夫
事務局：近畿大学法学部（三柴丈典）
〒577-8502　東大阪市小若江3-4-1
TEL06-6730-5880

有機溶剤中毒研究会
代表者、事務局移動作業中

中小企業衛生問題研究会
代表者、事務局移動作業中

近畿地方会選出理事の所轄担当

本部理事会は年4回公衆衛生ビル（東京都新宿区）にて午後1時30分より5時迄開催され各担当者より多数の提案・報告があり精力的に、協議が重ねられている所であり、理事出席率は85%以上である。近畿地方会選出の理事4名の所轄担当は以下の通りである。藤木幸雄（理事長）、植本寿満枝（産業看護部会副担当）、圓藤吟史（総務主担当、渉外：学会、日本医師会担当）、岡田章（渉外：産業界担当、功労賞並びに名誉会員選考委員会委員、産業医部会主担当）。

他の全理事の担当並びに議事録は学会誌を御参照下さい。

和歌山の観光地 白浜 に
人工透析施設が誕生
白浜空港より車で15分
JR白浜駅より車で7分
寝たきりゼロを目指して
いきいき上富田でいい汗をかこう
「プロジェクトW」展開中
医療法人　健佑会　上富田クリニック
和歌山県西牟婁郡上富田町朝来1407-1
TEL0739-47-1100
FAX0739-47-1208

会員の声

アルコール感受性とがん予防

和歌山県立医科大学
公衆衛生学教室

竹　下　達　也

6月より、和歌山県立医科大学公衆衛生学教室に異動いたしました。

私は、アルコール感受性の遺伝素因に関する仕事を続けていますが、もともとは内科研修医の頃に、多数の進行がん患者さん達と出会ったことがきっかけで、がんの予防に強い関心を抱き、環境化学物質の染色体法による評価というテーマに取り組みました。重要なヒト発がん物質の1つに塩化ビニルモノマーがあります。炭素2個の小さな化学物質が、どうして発がんという重大な健康影響を与えるのだろう？という素朴な疑問を感じました。動物実験等を通じて、遺伝子損傷の長期間持続性、つまり修復されにくいことが発がんにつながるのではないかとの仮説を支持する結果を得ました。

お酒の話にもどりますが、お酒に弱い人（ALDH2が1/2型または2/2型）は、飲酒時だけでなくその後もしばらく体内に滞留するアセトアルデヒドの有害な作用にさらされます。お酒に弱い1/2型であるのにアルコール依存症または多量飲酒者という人の食道がんの危険度が、お酒に強い1/1型の同じ群にくらべて13倍も高いことが最近明らかになりました。発がんへのアセトアルデヒドの関与はほぼ確実です。このアセトアルデヒドも炭素2個の小さな物質であり、アセトアルデヒド発がんのメカニズムに興味は尽きません。

個体差に合わせたきめ細かい予防医学のためにも、ALDH2遺伝子型については、検査を希望する人全員が遺伝子型を知ることができる体制を整えることが望ましいのではと個人的には思っています。体質に合った適量飲酒の推進が重要だと思います。

近い将来、もし産業化学物質の代謝や健康影響に決定的に影響する遺伝子型が明らかになって来ましたら、生物学的モニタリング等産業保健にも大きな影響を与える可能性があるのではと考えている所です。

＊＊＊

会員の声

最近健診中に思うこと
～開業医10年、嘱託産業医、学校医やってます～

本出診療所院長
農水省近畿森林管理局管理医師　他
嘱託産業医
本　出　　肇

毎年4月、5月は、健診の季節である。10年も同じ事業所の健診をしていると、新入社員の時は、ヤンキーみたいな口の利き方しかできなかったアンちゃんが、いっぱしの職人になっていくのを観察するのも楽しみである。

会社の業績が、社員の雰囲気まで影響するのか、待合で待っている間の勢いにも違いが出てくる。イケイケドンドンの会社は、病気で診察待ちの患者さんのことなど目に入らない、思わず婦長が注意をする。逆に営業所縮小や移転となる会社の社員は、待合でも声が沈んでいるし、健診結果の通知など上の空で聞いている。生活習慣病予防より明日の生活が気になるのは、あたりまえだ。

この季節は、学校でも健診、予防接種がある。学級崩壊という言葉があるが、待っている間中騒いでいるし、担任の教師を呼び捨てにしたり、診察の途中「どんな音すんの。」と、聴診器を引ったくられたりしたときは、ほんとに驚いた。

長期休業をする教師が多いのもわかる気がするが、いつ頃から教師が怖い存在でなくなったのだろか。怖いけれども尊敬される教師など必要でない時代なのだろう。医師も教師と同様先生と呼ばれている。そういえば最近怖い医師が少なくなったようだ。病気を治療するのが本領なのに患者の顔色を窺いながら当り障りのない対応をする。

小泉政権は、市場原理主義がお得意だから、自由競争、企業参入ということになるのだろうが、人気がある医療機関になるためには、世の中は、ドンドン利用者本位に流れていく。本人にとって真に必要なことは二の次で、まずそのときの本人の意思が、絶対決定条件になる。「お客さまは神様です。」という言葉が、「患者さまは神様です。」に変わるのはいつのことだろう。教育者が、聖職から労働者に変わったように、医師が、人の命を利潤追求の具にするようになると、やはり医師も呼び捨てにされるであろう。もう数年先には、受付で、ファーストフーズのレジみたいに「今月は、糖尿の検査が、セットでお得になっています。」なんて案内することになるのかもしれない。

＊＊＊

近畿の産業保健活動－滋賀県－

－産業保健推進センターの現況－

滋賀産業保健推進センターの事業状況について

滋賀産業保健推進センター副所長　伊藤　昭男

既に、当センターの業務内容についてはご承知のことと思われますが、平成14年度の事業計画の概要等をご紹介することによりあらためて産業保健推進センター事業へのご理解とご協力をお願いします。

Ⅰ　平成14年度滋賀産業保健推進センター事業計画（抜粋）

1．労働者の健康を取り巻く情勢等

最近における勤労者の健康問題は、食習慣や不規則な生活習慣を原因とする生活習慣病の増加と企業を取り巻く厳しい経済情勢の中、リストラや転籍等、労働者に対するストレス要因の増大により、職場不適応や過労自殺等のメンタルヘルス問題が社会的にも大きな関心を帯びている。

また、職場における健康管理の現状は、事業場の規模間格差が顕著であり、特に小規模事業場においては、産業保健スタッフの不在等から産業保健サービスが充分に行われていない現状が見受けられる。

一方、県内における職業性疾病（休業４日以上）は平成12年99件と前年比19.3%の増加に転じ、依然として旧来の疾病が後を絶たず、定期健康診断の結果においても脳、心臓疾患につながる所見を始めとする何らかの有所見者は40.3%を占めている。

当産業保健推進センターも開設から４年目を迎え、事業展開も一応軌道に乗り事業内容についても関係者から一定の評価を得るに至ったが、昨年12月に閣議決定された「特殊法人等整理合理化計画」の指摘を待つまでもなく、明確な目標の設定とその達成に向けた計画的な事業の実施を行うことが必要であり、また、活動についてもコストに見合った「事業意識」を強くもちつつ、より一層効果的、効率的な事業運営が求められている。

2．重点事項

平成14年度における当センターの事業運営については、県内の産業保健活動の一層の活性化を図る拠点として、地域における産業保健関係者より信頼されるセンターを目指し、次に示す事項を重点として取り組むこととする。

(1)　実施体制の強化と広報・啓発活動の展開　　(2)　研修事業の一層の充実

(3)　地域産業保健センターへの支援体制の強化

(4)　小規模事業場産業保健活動支援促進事業の推進（産業医共同選任事業）

(5)　深夜業従事者に対する自発的健診受診支援事業の推進

3．事業の実施

(1)　実施体制の強化・充実

産業保健名簿システムの整備・充実及びメンタルヘルス相談外部資源としての体制の充実等を図る。

(2)　広報・啓発活動の展開

労働局、労基協会等との連携による事業主セミナーの開催、情報誌の発行、ホームページの充実、各種キャンペーン活動の実施及び関係法令改正事項等の周知に務める。

(3)　研修事業の充実

例年の「労働衛生管理講座」「産業看護講座」「産業保健講座」及び「地域産業医リーダ研修」を開催する他、「ケースカンファレンス及びケーススタディ研修」「地域保健との交流会」を計画実施する。

(4)　地域産業保健センターに対する支援

各地域産業保健センターの運営協議会への出席、個別訪問指導等に対する支援、地域産業保健センターのコーディネーターへの資質向上のための研修の実施及び産業保健バンクとしての情報提供等を支援する。

(5)　個別相談事業

窓口相談の利用促進及び実地相談の拡大を図る。

(6)　その他

「小規模事業場産業保健活動支援促進事業」及び「深夜業従事者に対する自発的健診受診支援事業」を推進する。更に、図書・ビデオ等の整備充実を図り、産業保健関係者等に貸出し及び産業保健に係る調査研究事業を実施する。

以上が当センターの平成14年度の事業計画であります。ここで、少し平成13年度までの実績を触れますと、各種研修が30回程度で約1,000人、事業主セミナーが共催で15回程度で約800人、個別相談は約250件、図書等の貸出しが約580件及びホームページへのアクセス件数が約2,100件程度とそれぞれ年間実績となっており、徐々に利用への関心が深まっているものと理解しています。今後も、更にニーズに答えるべき努力をしていきたいと思っていますので、産業保健推進センター事業へのご理解とご協力をお願いします。

近畿地方会50周年記念祝賀会開催される

日本産業衛生学会近畿地方会発足50周年記念祝賀会が天王寺都ホテルにおいて、5月25日近畿地方会総会終了後の午後6時30分より約60名の来賓、会員の参加のもとで開催された。

祝賀会には「産業医学実践講座」（南江堂）の出版記念会の併催もされ、堀口俊一地方会長の挨拶に引き続いて、徳永力雄編集委員長からこの日に合わせて発刊された同書の紹介があった。近畿地方の全大学関連教室の教授を始め多数の方々の分担執筆によるもので、まさに類をみない近畿地方会総力の結実であり、まとめられた徳永委員長の熱意と努力に感謝と敬意の大きな拍手があった。大阪府医師会長の祝辞（代読　酒井英雄理事）も戴き、近畿地方会発足にたずさわった諸先輩の方々を囲み華やかに拡がった話の輪も、約2時間の祝宴であっという間に過ぎ、益々の本会の発展と会員の健勝を祈念してお開きとなった。なお、大阪医科大学河野公一教授のもとで、50周年記念誌の出版準備も進められ、今秋には刊行される予定であり、近畿地方会の大いなる記念事業が続々と遂行される訳で、共に慶びとしたい。

Healthy Society

■ヘルスアセスメントから健康支援を
□ライフスタイル診断
□食生活診断
□健康体力診断
□ストレス診断
□ヘルスナビ
■データベースから健康支援を
□データベース作成サービス
□パソコンソフト「ヘルシーWin」
□インターネットサービス

財団法人 日本予防医学協会　http://www.sunnet.or.jp

本部　東京都江東区扇橋 1-21-25　TEL 03-3649-3651
東日本支部　東京都江東区扇橋 1-21-25　TEL 03-3649-6111
関西支部　大阪市北区西天満 5-2-18　TEL 06-6362-9041
西日本支部　福岡市博多区博多駅前 3-19-5　TEL 092-473-0547
名古屋出張所　名古屋市東区代官町 39-18　TEL 052-931-0526
茨城連絡事務所　茨城県鹿嶋市大字光 3　TEL 0299-82-7736

会員の異動（平成14年4月1日～4月30日届出分：届出順）

退会

高橋　恭子　津田　晴子　永井　孝子
藤井　徹　当麻　恵　栗谷　種一
日高　靖雄　渡辺　美穂　森木千恵美
中川千賀子　田村　玲子

入会

中村　佳代（東芝ヒューマンアセットサービス(株)）
菊池　厚子（(財)日本予防医学協会関西支部）
田中　優美（松下電子部品(株)本社健康管理室）
林　千世（出版健康保険組合大阪支部）
内田朝日己（(医)内田医院）
衣川　広美（(財)兵庫県予防医学協会健診センター健康相談室）
北村　修一（松下電器健康管理センター）
原　英記（大阪国税局診療所）
斎藤　昇子（ダイセル化学(株)特機・MSDカンパニー播磨工場）
伊藤　和彦（三菱電機関西支社健康管理センター）
杉田　隆博（中央労働災害防止協会大阪労働衛生総合センター）
中山由美子（住友化学工業(株)生物環境科学研究所）
薗　潤（神戸市灘区保健部）
八十嶋　晶（(医)八十嶋病院）
原　ちさと（松下電器産業(株)本社技術部門西門真地区健康管理室）
上津　昌広（社会保険紀南総合病院）
森本　由香（花王(株)大阪サービスセンター健康相談室）
増田弥恵子（大日本スクリーン製造(株)）
山村　ユリ（松下電器産業AVC社ITプロダクツ　守口）
日野　幸子（大阪ガス健康保険組合）

所属変更

岩永由姫子（ＮＴＴ西日本福岡健康管理センタ）九州地方会へ
原田　裕治（アンジェスＭＧ(株)）九州地方会より
中山　邦夫（大阪大学大学院医学系研究科社会環境医学講座環境医学）
辻　久美子（和歌山県立医科大学看護短期大学部）
千谷　東海（(財)順天厚生事業団）
白鳥　友子（ＮＴＴ西日本関西健康管理センタ）
森本　道雄（ＮＴＴ西日本関西健康管理センタ）
山田　美佐（東芝ヒューマンアセットサービス(株)）
有光　洋一（ＮＴＴ西日本関西健康管理センタ）
加藤　憲忠（新日本製鉄(株)君津製鉄所労働・購買部診療所）関東地方会へ
株本　貴史（日本赤十字社和歌山医療センター）九州地方会より
石川千恵子（藤沢ビジネスサービス(株)保健事業部）
西埜植規秀（松下産業衛生科学センター）
森岡　郁晴（和歌山県立医科大学看護短期大学部）
金岡　緑（三重大学医学部看護学科母子看護学講座）東海地方会へ
亀田　真紀（松下健康管理センター）北陸甲信越地方会より
大柴　聡（近畿安全衛生サービスセンター（中災防））
鹿島　聡子（中央労働災害防止協会中部安全衛生サービスセンター）東海地方会へ
岩田　信生（新日本石油精製(株)大阪製油所）
美崎　幸平（ツイン２１ナショナルタワー健康管理室）
木山　昌彦（大阪府立健康科学センター）
柳井　康（松下幸之助商学院）
垣本　洋希（ＮＴＴ西日本関西健康管理センタ）
中村　芳子（ＮＴＴ西日本関西健康管理センタ）
岩澤　雅子（神戸市保健所地域保健課）

その他

亀井真由美（神戸市健康づくりセンター(健康ライフプラザ)）保健師へ

お知らせ

第42回　近畿産業衛生学会演題募集

主　催　日本産業衛生学会近畿地方会
学会長　河野公一（大阪医科大学　衛生学・公衆衛生学教室教授）

1．開催日時と場所
日時：2002年11月9日（土）9:30－17:00
会場：大阪医科大学　臨床第1講堂、臨床第2講堂、学1講堂、学2講堂
住所：高槻市大学町2－7（JR高槻駅；徒歩10分、阪急 高槻市駅；徒歩5分）

2．演題募集要項
申込締切日：8月31日（土）必着
申込要領：①同封の演題申込用紙に演題名、発表者名、所属、連絡先、要旨を記入し学会事務局宛申し込む。
②申込み到着後、学会事務局から「専用原稿用紙」を送付。
③抄録原稿の提出締め切りは、9月30日（月）とする。
④スライド、OHP及びPower point (FDのみ)が使用可能。
⑤1題12分（口演7分、質疑5分）の予定。

3．プログラム
午前：一般演題、幹事会及び評議員会
親睦会：昼食をかねた親睦会を大学の食堂で予定しています。(無料)
午後：1．特別講演
心肺蘇生法の新しい潮流　－産業現場での救命のための初期対応－
講師　冨士原　彰（大阪医科大学救急医療部教授）
2．産業現場における応急処置の実技講習

4．その他
・日本医師会産業医生涯研修単位認定を申請中
・日本産業衛生学会産業看護職継続教育（実力アップコース）単位認定申請予定
・学会参加費　学会員　2000円　非学会員　3000円
註）学会への参加申し込みは学会当日受付いたします。(事前申し込みの必要はございません)

5．学会事務局（演題申込先及び問合せ先）
〒569-8686　高槻市大学町　大阪医科大学　衛生学・公衆衛生学教室内　第42回　近畿産業衛生学会事務局
TEL：0726-83-1221　内線2651　FAX：0726-84-6519
E-mail: hyg001@art.osaka-med.ac.jp (事務局：土手　友太郎)

編集後記

今世紀、日本での開催はもう無いと言われているサッカーの第17回ワールドカップが開催され、関西においては野球チームも好調を続けている中で、日本ことに近畿の産業界の景気活性化が待望されているところであります。

先日日本産業衛生学会近畿地方会の第50回総会が開催されましたが、本学会はまさに産業界の発展と共に歩んできたと言っても過言ではないでしょう。右肩上がりの経済で整えられたこれまでの体系が、その停滞と共に過重労働をもたらしメンタルなど新たな対応も迫られています。高い付加価値と技術に支えられた物作りだけでなく、先述の『勢い』を貰って景気が回復すれば、産業衛生を取り巻く環境全てが好転するでしょう。期待しています。(大東)

編集委員（五十音順）
大東正明、大脇多美代、岡田章（編集責任）、
車谷典男、杉本寛治、日高秀樹、道辻広美、山田誠二

次回発行日　2002年10月15日
次回原稿締切日　2002年8月31日